

2024 年度からの引継ぎ事項

【次年度理事長候補者選出について】

・次年度理事長候補者の面接時間を例年より早くしたことにより、発表の時間を予定通り実施することができた。次年度以降も面接時間となるべく早く設定する、もしくは面接日と発表日を別日に設定することを検討するとよい。

・次年度役員選考委員会の議案を作成する段階で、面接および発表の日時を決定しておくことにより、事前に想定したスケジュールで選考を進めることができた。引き続き議案作成時点で上記のように決定しておくとよい。

【辞退届について】

・本年度は例年より辞退届の提出者が少なかった。引き続き、辞退届の提出を検討しているメンバーがいたら関わりを持っているメンバーからの声かけを行うとよい。やむを得ない事情により理事を受けることができないメンバーも存在するので、辞退届は存続して運用方法に関して、受付期間をどうすればよいか、提出する場合次年度や直前との面談をおこなうなどの運用方法を再検討するとよい。

【第一回臨時総会】

・開票を行う際、事務局メンバーに投票用紙が見えないようにする必要がある。事務局メンバーはただ後ろ向きの紙を集めるだけで、合計数などの確認は次年度役員選考委員会のメンバーが行うとよい。

・監事選出においても理事選出においても、同票数になったときの対応を事前に検討しておくとよい。監事を 2 名選出するとして 3 名が同票数だったとき、2 位 3 位が同票数だった場合どちらが選出されるのか、もっと大人数同票数だったとき選出される方や次点をどう決めるのか、など起きる可能性は低くても確実に起きないとはいえない状況に対しての想定が甘かったなど感じています。対応としては、再度対象者のみで決選投票を行う、などが考えられます。理事選挙も同様です。